

目次

本計画の構成

序章

都心のまちづくりとエネルギー施策の変遷	2
計画策定の背景 - 二計画統合の意義 -	4

第1章 計画の目的と位置付け

1.1 計画の目的	6
1.2 計画の位置付けと計画期間	7
1.3 計画対象区域	8

第2章 現状と課題

2.1 都心の現状	10
(1)気候風土・歴史	10
(2)まちの資源	11
(3)土地利用の状況	12
(4)都心交通の状況	15
(5)エネルギー利用の状況	16
2.2 都心まちづくりのこれまでの取組と市民・来街者意向	20
(1)都心まちづくりに係る計画の変遷	20
(2)これまでの都心まちづくりの成果	21
(3)市民・来街者の意向	23
2.3 社会・経済・環境の変化と札幌市のまちづくりの動向	25
2.4 都心まちづくりの課題(まとめ)	32

第3章 理念・目標と都心の構造

3.1 理念・目標	35
(1)目標1「多様なひと・もの・ことが集まり新たな産業・文化・交流が生まれる都心」	39
(2)目標2「冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心」	40
(3)目標3「気候風土に即した先進的な取組により脱炭素化・強靱化が進む都心」	44
3.2 都心の構造	45
(1)骨格構造	46
(2)エネルギー施策のエリア区分	48
(3)まちづくりゾーン	49
(4)今後の都心まちづくりを進める上での最も重要な基本要素	51

第4章 取組の方向

4.1 目標の実現に向けた取組の方向	54
(1)目標1の実現に向けた取組の方向	54
基本方針1-1 多くの人を呼び込む「高次都市機能の集積」	55
基本方針1-2 札幌らしい「都市のブランド力の強化」	59
基本方針1-3 シティプロモーションの強化	64

(2)目標2の実現に向けた取組の方向	65
基本方針2-1 札幌都心ならではの「魅力的なストリートの形成」	67
基本方針2-2 都心のまちづくりを支える「機能的な交通環境の構築」	74
基本方針2-3 多様な活動や交通環境を充実させる「戦略的なマネジメント」	82
主要回遊エリア・主要検討路線	87
(3)目標3の実現に向けた取組の方向	93
基本方針3-1 最適な手法の組合せによる脱炭素化の推進	95
基本方針3-2 雪や寒さにも負けない、安全・安心で強靱な都心の構築	105
基本方針3-3 先進的な取組の誘導と適切な進捗管理	110
4.2 骨格構造における取組の方向	113
(1)にぎわいの軸／札幌駅前通	114
(2)はぐくみの軸／大通	115
(3)つながりの軸／創成川通	116
(4)うけつぎの軸／北3条通	117
(5)いとなみの軸／東4丁目線	118
(6)札幌駅交流拠点	119
(7)大通・創世交流拠点	120
(8)大通公園西展開拠点	121
(9)中島公園駅周辺展開拠点	122

第5章 重点的に進める取組

5.1 基礎となる取組	124
(1)『まちづくり×エネルギー』の一体的な展開	124
(2)『札幌らしさ』の強調	125
5.2 場所別の取組	126
(1)重点1 大通・創世交流拠点とはぐくみの軸周辺	128
(2)重点2 都心まちづくりを先導する二つの交流拠点とネットワーク	129
(3)重点3 二つの展開拠点と展開軸	130
5.3 重視する進め方	131

第6章 取組の進め方

6.1 仕組みと体制	134
(1)中期アクションプログラムの策定	134
(2)目標及び取組に応じた指標の設定	134
(3)(仮称)都心まちづくり推進委員会の設置	135
6.2 連鎖的な取組の展開	136
(1)まちづくりとエネルギー施策の総合性・一体性の向上	136
(2)エリア別・テーマ別の取組の更なる充実	136
(3)市民・企業・行政などの協働	137
6.3 計画の実現に向けて	138

参考資料

資料1 計画策定の経緯	140
資料2 市民・来街者等の意向把握	144
資料3 パブリックコメント	146

本計画の構成

序章 計画策定の背景

- 都心まちづくりとエネルギー施策の変遷
- 計画策定の背景 -二計画統合の意義-

「都心まちづくり計画」と「都心エネルギーマスタープラン」を統合し、これからの時代にふさわしいまちづくりの指針として定めます

第1章 計画の目的と位置付け

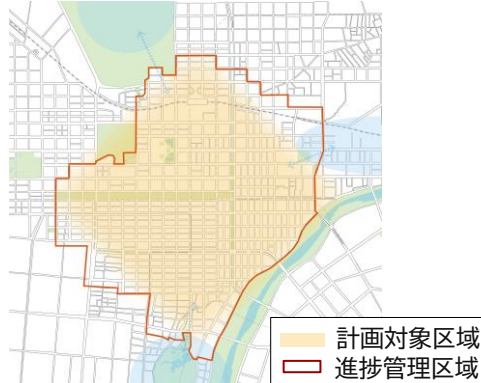
1.1 計画の目的

- ・ 次世代に引き継ぐ長期的な札幌都心の目指す姿の明確化と関係者との共有
- ・ 札幌都心の魅力と可能性を国内外に発信するツールとしての活用
- ・ 取組の方向の体系化と推進方法の具体化

1.2 計画の位置付けと計画期間

- ・ おおむね20年後の将来像を見据えた計画(社会経済情勢の変化等を踏まえ随時見直し)
- ・ データ等を活用した進捗管理の実施

1.3 計画対象区域



第2章 現状と課題

2.1 都心の現状

- ・ 気候風土・歴史
- ・ まちの資源
- ・ 土地利用の状況
- ・ 都心交通の状況
- ・ エネルギー利用の状況

2.2 都心まちづくりのこれまでの取組と市民・来街者意向

- ・ 都心まちづくりに係る計画の変遷
- ・ これまでの都心まちづくりの成果
- ・ 市民・来街者の意向

2.3 社会・経済・環境の変化と札幌市のまちづくりの動向

- ・ 人口減少局面への移行による市内経済規模の縮小
- ・ 脱炭素社会の実現
- ・ 自然災害の頻発化・激甚化
- ・ グリーン・トランスフォーメーション(GX)の推進
- ・ 交通面での変化
- ・ ウォークアブルシティの推進
- ・ 先行きが不透明で、予測が難しい時代 など

2.4 都心まちづくりの課題(まとめ)

変化する環境に柔軟かつ機動的に対応し、次代につながる都心のまちづくりを着実に進めることが必要

第3章 理念・目標と都心の構造

3.1 理念・目標

一体的・総合的に進める三つのまちづくりの目標と、取組の力点を共有する構造を示します

〈理念〉世界が憧れ、市民が誇れる、札幌・北海道の都心

目標1

多様なひと・もの・ことが
集まり新たな産業・文化・交流
が生まれる都心

目標2

冬でも、誰でも、
まち巡りが楽しい都心

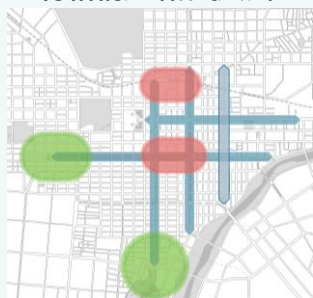
目標3

気候風土に即した先進的な
取組により脱炭素化・強靱化
が進む都心

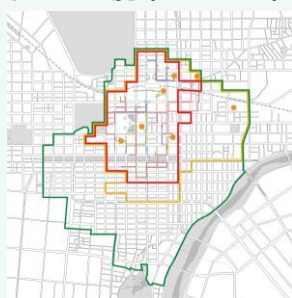
3.2 都心の構造

〈今後の都心まちづくりを進める上での最も重要な基本要素〉

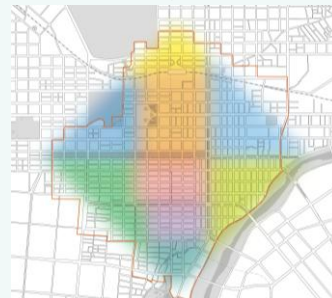
骨格構造(軸、拠点)



エネルギー施策のエリア区分



〈まちづくりの検討にあたり
考慮すべき考え方の土台〉
まちづくりゾーン



第4章 取組の方向

目標の実現に向けた取組内容と、骨格構造における取組の方向を示します

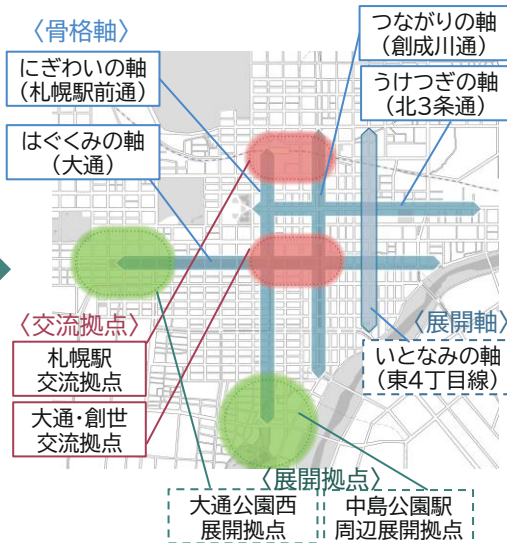
4.1 目標の実現に向けた取組の方向

目標1
 1-1 多くの人を呼び込む「高次都市機能の集積」
 1-2 札幌らしい「都市ブランド力の強化」
 1-3 シティプロモーションの強化

目標2
 2-1 札幌都心ならではの
 「魅力的なストリートの形成」
 2-2 都心のまちづくりを支える
 「機能的な交通環境の構築」
 2-3 多様な活動や交通環境を充実させる
 「戦略的なマネジメント」

目標3
 3-1 最適な手法の組合せによる脱炭素化の推進
 3-2 雪や寒さにも負けない、安全・安心で強靱な
 都心の構築
 3-3 先進的な取組の誘導と適切な進捗管理

4.2 骨格構造における取組の方向



第5章 重点的に進める取組

本計画で重視する考え方／場所／進め方を示します

5.1 基礎となる取組

『まちづくり×エネルギー』の一体的な展開
 〈仕組み〉札幌都心E！まち開発推進制度の発展・強化

『札幌らしさ』の強調
 ひと・ゆき・みどり

5.2 場所別の取組

重点1
 大通・創世交流拠点と
 はぐくみの軸周辺

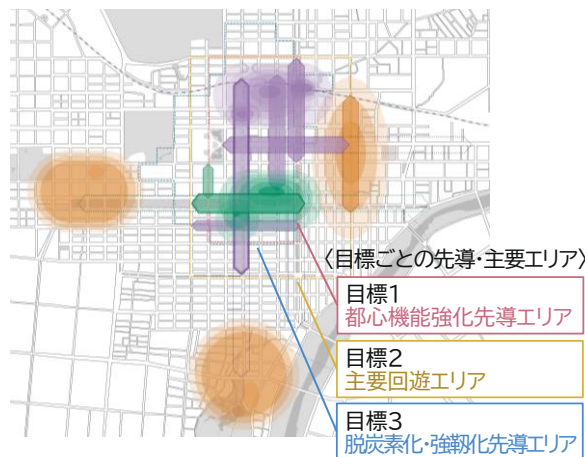
世界が憧れ、市民が誇れる、
 都市ブランドを確立する
 新たな象徴空間の創出

重点2 都心まちづくりを
 先導する二つの交流拠点
 とネットワーク

目標の実現を先導し、
 国際競争力をけん引する
 まちの形成

重点3
 二つの展開拠点と展開軸

都心の多様な魅力を高め、
 個性を生かすエリアまちづ
 くりの展開



5.3 重視する進め方

エリアまちづくり

社会実験と市民議論

既存ストックの活用

第6章 取組の進め方

取組を着実に進めるための仕組みと体制、取組の進め方を示します

6.1 仕組みと体制

- 中期アクションプログラムの策定
- 目標及び取組に応じた指標の設定
- (仮称)都心まちづくり推進委員会の設置

6.2 連鎖的な取組の展開

- まちづくりとエネルギー施策の総合性・一体性の向上
- エリア別・テーマ別の取組の更なる充実
- 市民・企業・行政などの協働

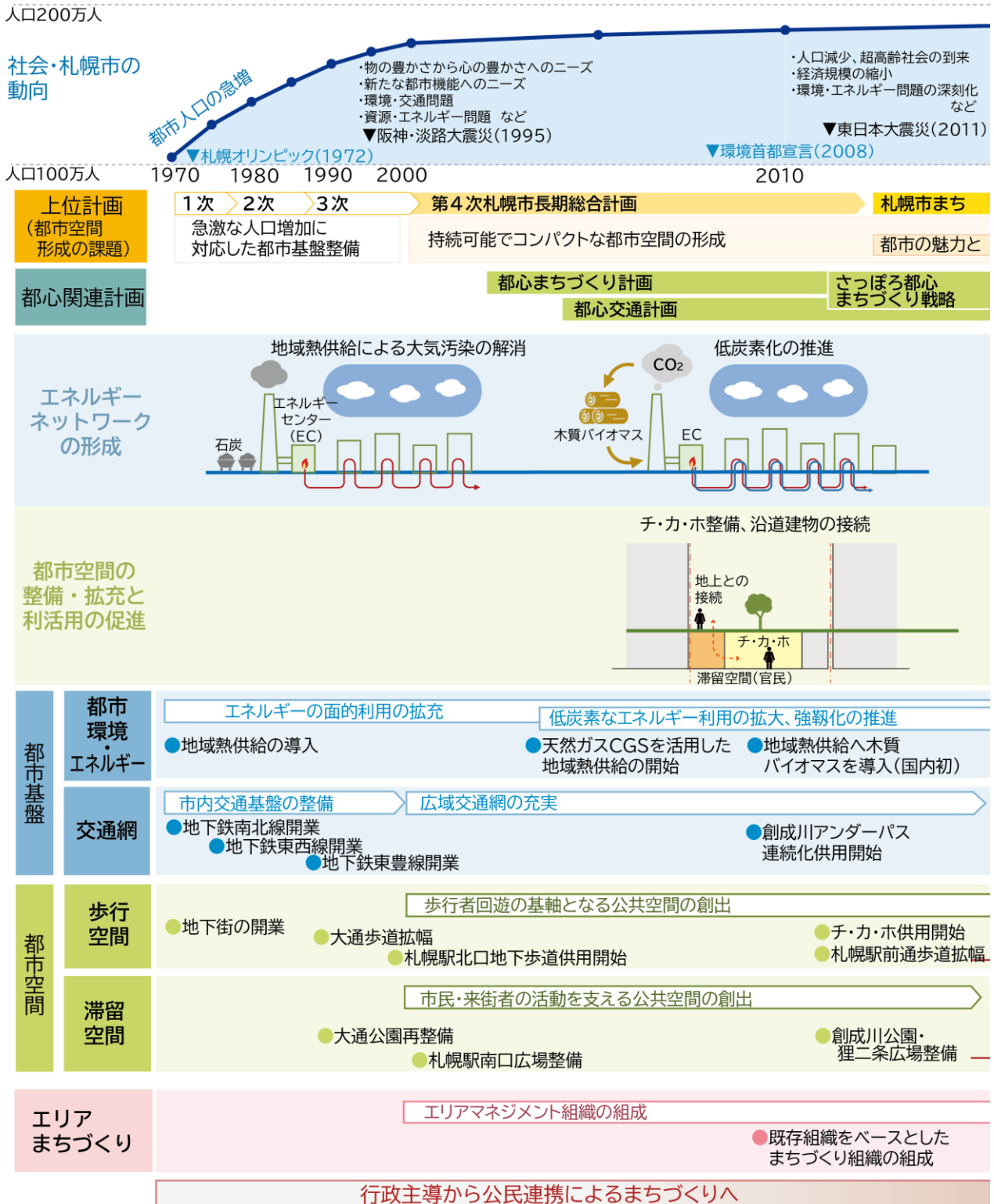
6.3

計画の実現に
 向けて

序章

都心のまちづくりとエネルギー施策の変遷

札幌の都心では、急速に変化する社会経済情勢や深刻化する地球環境問題に対応するため、都市環境・エネルギー、交通網といった都市基盤¹の強化や、歩行空間、滞留空間といった都市空間の充実、エリアマネジメント²によるエリアまちづくりの推進などを行っています。

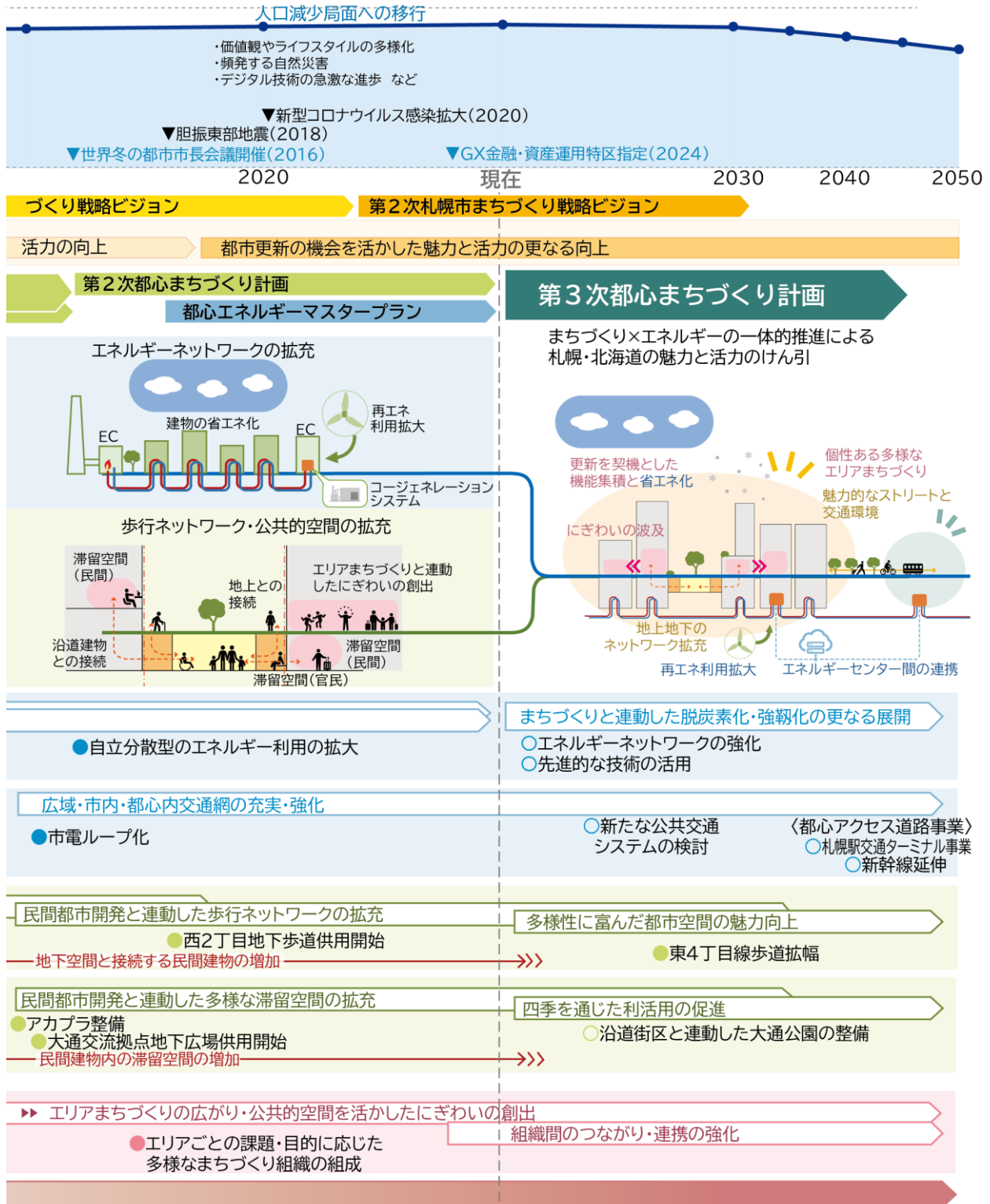


¹【都市基盤】道路、交通施設、上下水道、公園、河川、廃棄物処理施設、官公庁、学校、住宅、スポーツ施設などの都市を構成する基盤となる構造物。

²【エリアマネジメント】住民・事業主・地権者などが主体となって地域の現状や課題について話し合い、地域における良好な環境や地域の価値の維持・向上につなげる取組。

以下に、これらの取組の主な流れを示します。

本計画では、今後の動向を踏まえ、まちづくり×エネルギーを一体的に推進し持続可能な発展につながる道筋を示していきます。



計画策定の背景 – 二計画統合の意義 –

これまで、札幌の都心は、平成14年(2002年)に策定した「都心まちづくり計画」以降、計画の見直しを重ね、平成28年(2016年)には「第2次都心まちづくり計画」、平成30年(2018年)には「都心エネルギーマスタープラン」を策定し、都心まちづくりの指針とエネルギー施策の指針を両輪としてまちづくりを推進してきました。

その後、平成30年(2018年)の北海道胆振東部地震の発生や地震に伴う大規模停電、新型コロナウイルス感染症を契機とした社会の意識の変化に加え、北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピック冬季競技大会招致活動の停止、北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)の完成・開業の遅れ、建設コストの急激な高騰といった環境面の変化など、本市の都心を取り巻く状況は大きく変わってきており、柔軟かつ機動的に対応する必要があります。

また、両計画は、対象区域が相違していることや、取組内容が重複していること、進行管理が別々であることなどの課題が徐々に浮き彫りになってきていることも踏まえ、今後は、都市機能³・都市空間に関する都心まちづくりの指針と都心のまちづくりを支えるエネルギー施策の指針を統合し、都心まちづくりの総合性と一体性の確保・強化を図るほか、重点戦略を明確化し、進行管理の一体化による実効性を確保することで、都市機能の集積と環境負荷の低減の相乗効果を生み出しながら、将来にわたって魅力と活力を維持できる持続可能な都心を目指します。

これは、全国でも他に類を見ない先進的な取組であり、単なる計画の効率化を図るものではなく、札幌の都心が世界水準の「質の高い都市機能」と「持続可能な環境性能」を兼ね備えた、世界のモデルとなる都市を目指すためのものとなります。

札幌の都心は、この統合された計画のもと、世界が憧れ、市民が誇れる、札幌・北海道の都心として持続的に発展していきます。

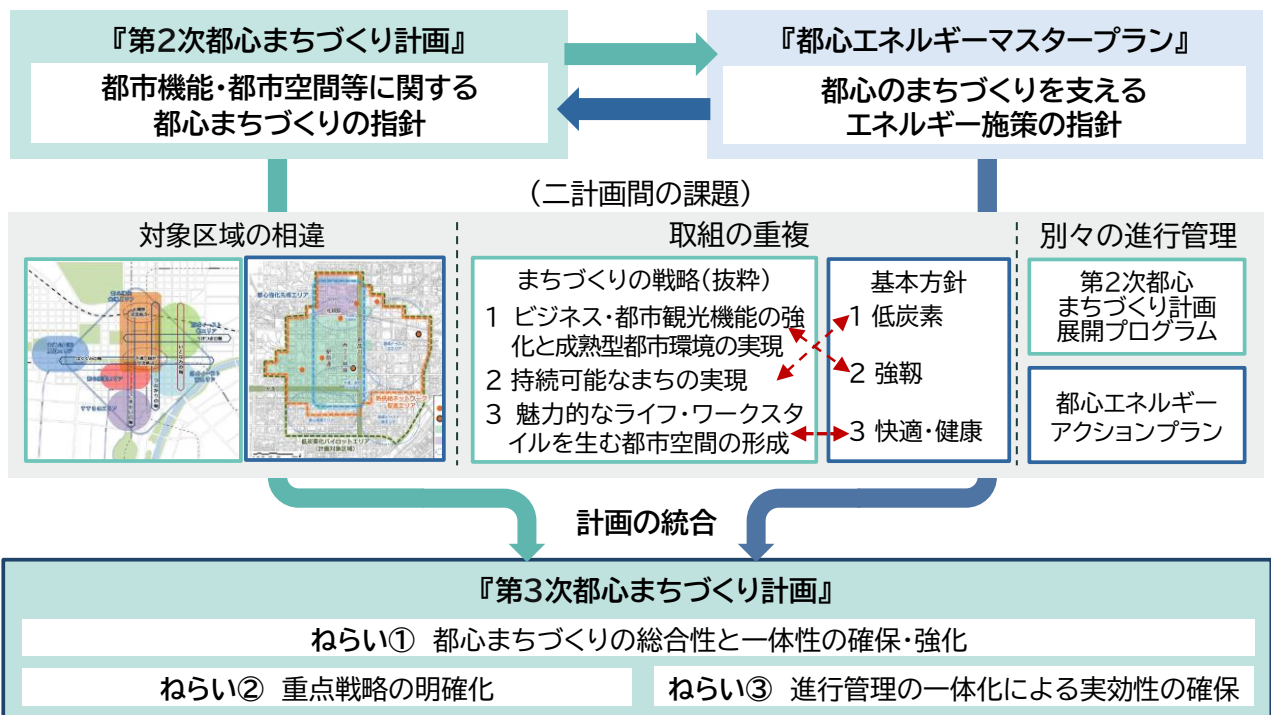


図0.1 二つの計画の統合

³ 【都市機能】都市の持つ種々の働きのことで、商業、居住、工業、交通、政治、行政、教育などの諸活動によって担われる。